

Another Face

もうひとりの私

いきいきと仕事をしている人は、人生の楽しみを持っている



医療法人医誠会 東舞鶴医誠会病院
薬剤科 薬剤師 係長

土下 喜正さん
つちした よしまさ

ホロニクスグループには約 5,600 人の職員がいます。仕事に加えて様々な特技、趣味、ボランティアで活躍している方も数多くいます。医療法人医誠会 東舞鶴医誠会病院 薬剤科 薬剤師 土下 喜正さんに仕事以外のもう一つの姿について語っていただきました。

薬剤師とは…お薬をお渡しするだけでなく、処方箋に疑問があれば医師に確認したり、お薬の適正使用に繋がるために処方設計、処方提案なども行っています。他の医療スタッフに医薬品情報を提供するなどチーム医療に取り組んでいます。

“ 友達の病気をきっかけに 薬剤師の道を志す ”

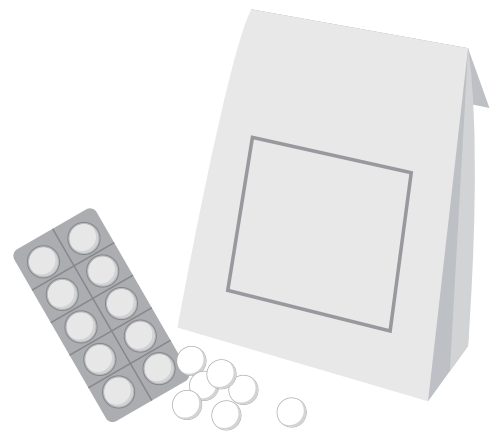
小学生の頃、てんかんの持病がある友達と遠出する機会がありました。車で1時間ほど走ってから発作を止めるお薬を忘れたことに気づき、家まで引き返したことがありました。「そんなに大切なお薬があるのか！」と薬に興味を持つようになりました。

薬学部の先生方の『薬を安全に正しく使うには病院薬剤師が処方方を是正しなければならぬ。』との教えに感銘を受け、病院薬剤師として働いています。



“ より良い処方提案で 減薬に取り組んでいます ”

当院に入職して3年になります。それまでの16年間、総合病院ですべての診療科の病棟業務に従事し薬物療法を学びました。その経験を活かし現在は認知症の高齢患者さんに処方設計、処方提案を行っています。



日本老年医学会は75歳以上の高齢者への処方は5種類を目安にと提言していますが、当院では精神疾患の患者さんも多いので6種類を目安と考えて取り組んでいます。その結果、様々な合併症の頻度が減少傾向でお薬の適正使用ができていると感じています。当法人もグループ全体で薬剤師が介入し薬を適正使用することに取り組んでおり、とても働きやすいと感じております。



“ 地元消防団に所属し 地域防災に貢献 ”



右から3人目が土下さん

地域のお祭りで「消防団に入ってみませんか？」と声を掛けられ活動歴は10年です。実はその中に東舞鶴医誠会病院の看護師さんがいて、そのご縁で転職しました。毎年6、7月は小型ポンプ操法を、春・秋・冬には放水訓練もあります。特別年末警戒や舞鶴に多くある文化財での訓練が毎年行われており、火災が発生した時には鎮火後の警戒活動なども行います。活動担当地区の河川は、台風や豪雨などで水害が発生しやすく、道路の冠水を防ぐための土嚢を組んで通行を確保する活動もあります。



管弦楽団でホルンを！
薬学部時代、
先輩方にお誘いを受け①



ホルンは大学時代からはじめて 25 年目になります。現在は舞鶴の自衛隊音楽隊の OB の方が立ち上げた社会人の吹奏楽団に所属し、吹奏楽コンクールにも毎年参加しています。

練習は週 1・2 回、ホールでの演奏は年 2・3 回のペースで行っています。舞鶴港に寄港したフェリーを見送るための演奏、地域の夏祭りや老人ホームなどからも演奏の依頼が多数あ





管弦楽団でホルンを！
薬学部時代
先輩方にお誘いを受け②



ります。当院のクリスマス会でも幾度かホルンを吹き、音楽療法をやっている事務員さんの弾くピアノと合わせて演奏し患者さんに楽しんでいただきました。ホルンで培った技術を活かして、地域のお祭りでは法螺貝を吹いています。



東舞鶴医誠会病院

ホームページ：<http://www.higashimaizuruhp.or.jp/>

“ 地域の人々との関わりを大切に、4人の子供たちのためにできること ”

他にもボーイスカウト（ビーバースカウト）の副長、ちびっ子レスリングの審判員、町内や市内の敬老会でのお薬相談、舞鶴薬剤師会、京都府薬剤師会の役員や評議員などを努めています。地域のお年寄りとはあまり交流がなかったのですが、お薬の相談をお聞きしたり、ホルンの演奏を聴いていただいたりと親睦を図っています。ボーイスカウトは私の子供が4人もお世話になっているので、隊長の補佐役として子どもたちと交流しています。

お薬は子どもから高齢者の方まで、多くの方の健康に欠かせないものです。同時に、薬には副作用があり、飲み方や飲み合わせなど注意することもたくさんあります。幅広い世代の方と交流しながら、薬に関する正しい知識を広めて行きます。

